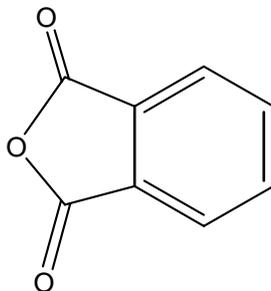


## 化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2000 - 54	官報公示 整理番号	3 - 1344(化審法) 1 - 312(化学物質管理促進法)	CAS 番号	85 - 44 - 9
名 称	無水フタル酸		構 造 式		
分子式	C <sub>8</sub> H <sub>4</sub> O <sub>3</sub>		分子 量	148.12	
<p>市場で流通している商品(代表例)<sup>1)</sup></p> <p>純 度 : 99%以上</p> <p>不純物 : フタル酸</p> <p>添加剤または安定剤: 無添加</p>					
<p>物理・化学的性状データ</p> <p>外 観: 白色固体<sup>2)</sup></p> <p>融 点: 130.8 <sup>2)</sup></p> <p>沸 点: 259 <sup>2)</sup></p> <p>引 火 点: 151 (c.c.)<sup>3)</sup></p> <p>発 火 点: 570 <sup>2)</sup></p> <p>爆発限界: 1.7 ~ 10.4 vol%(空気中)<sup>4)</sup></p> <p>比 重: d<sub>4</sub><sup>20</sup> 1.53(固体)、d<sub>4</sub><sup>135</sup> 1.20(液体)<sup>2)</sup></p> <p>蒸気密度: 5.11(空気 = 1)(計算値)</p> <p>蒸 気 圧: 1.3 hPa(1mmHg)(96.5 <sup>2)</sup>)</p> <p>分配係数: log Pow ; 1.60(実測値)、2.07(計算値)<sup>5)</sup></p> <p>加水分解性: 水中で加水分解を受けフタル酸を生じる 加水分解半減期 = 1.5 分(25 <sup>2)</sup>)</p> <p>解 離 定 数: 解離基なし</p> <p>スペクトル: 主要マススペクトルフラグメント m/z 104(基準ピーク, 1.0)、76(0.77)、50(0.38)<sup>6)</sup></p> <p>吸 脱 着 性: 土壌吸着係数 Koc ; 36<sup>2)</sup></p> <p>粒 度 分 布: 該当せず</p> <p>溶 解 性: 水、二硫化炭素に可溶<sup>2)</sup></p> <p>換 算 係 数: 1 ppm = 6.16 mg/m<sup>3</sup> (気体, 20 <sup>2)</sup>) 1 mg/m<sup>3</sup> = 0.162 ppm</p>					

## 総合評価

### 1) 危険有害性の要約

本物質は皮膚、眼及び上気道への刺激性を有し、ヒトへの影響として結膜炎、気管支炎、肺気腫がみられ、皮膚感作、気管支喘息が報告されている。実験動物においても刺激性、感作性が認められ、反復投与により肝臓、腎臓、副腎、視床への影響がみられている。変異原性・遺伝毒性では、主に陰性の結果が報告されており、発がん性試験でも腫瘍発生率の増加はみられていない。生殖・発生毒性試験で奇形の報告がある。

本物質は環境中に放出された場合、水圏では生分解されやすい。大気中ではOHラジカルの反応が関与しており、半減期は1年程度と計算される。環境省のモニタリングデータはない。水圏環境生物に対する急性毒性は藻類で弱い。

### 2) 指摘事項

- (1) ヒトに対し刺激性と感作性を有する。
- (2) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

(無水フタル酸)3

平成 14 年 3 月改訂

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(2001).
- 2) Hazardous Substances Data Bank(HSDB), U.S. National Library of Medicine(1998).
- 3) Sharat Gangolli, The Dictionary of Substances and their Effects, 2nd. Ed., The Royal Society of Chemistry(1999).
- 4) IPCS, International Chemical Safety Cards(1989).
- 5) KowWin(Syracuse Research Corporation).
- 6) NIST Library of 54K Compounds.